

## 分析サンプルの採取方法及び発送について

### 1. SOFIX 分析サンプルの採取方法

#### (1) 土壌採取のタイミング

天気が良い日に土壌を採取する。暑く乾燥した時期や雨の間は避けて、一定の湿度を保持した土壌を採取する。

#### (2) 土壌採取方法

- ① 表面土壌の乾燥した部分を取り除き、土壌サンプラーやスコップなどで深さ約 15 cm の土壌を採取する。
- ② 同一条件の 1 圃場で少なくとも 5 か所の土壌を採取する。面積が広い場合は、より多くの箇所から土壌を採取する（図 1）。土壌の採取時は、圃場の端を除いた部分からまんべんなく取るようにする。

※1 圃場最大 30 アールまでを目途にする

※同一条件とは、作物、肥料、農薬、灌漑などの管理が同じであり、植物の生長と収量、害虫や病気の発生率などが同じであること

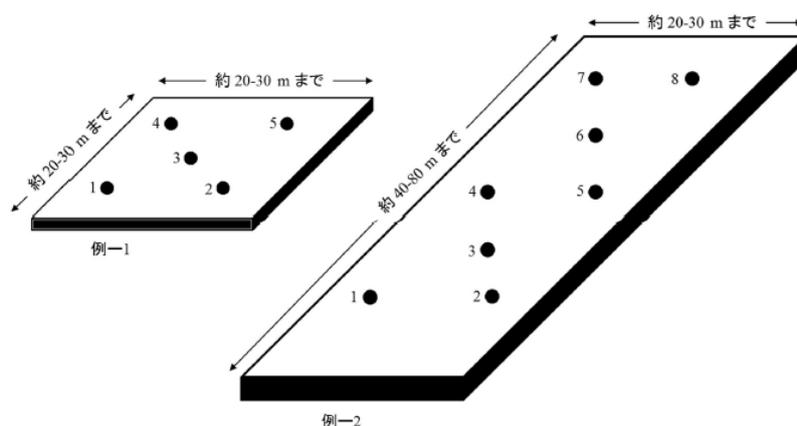


図 1 土壌の採取地点と採取数

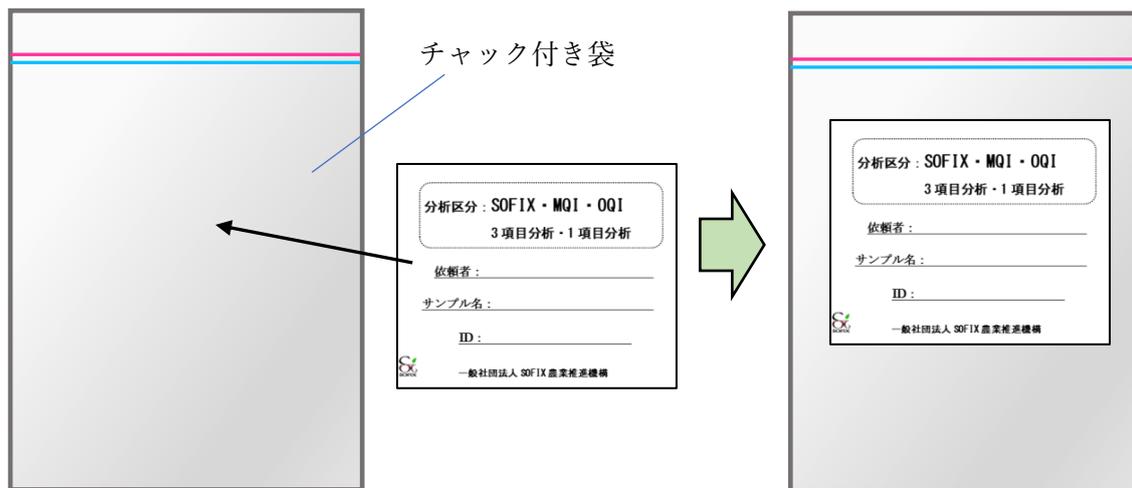
- ③ 全ての点から採取した土壌を混合し、できるだけ根や石を取り除いて 1 検体とする。このとき、各採取地点の土壌の重量が同じになるように混合する（表 1）。

表 1 混合時の各採取地点の土壌重量

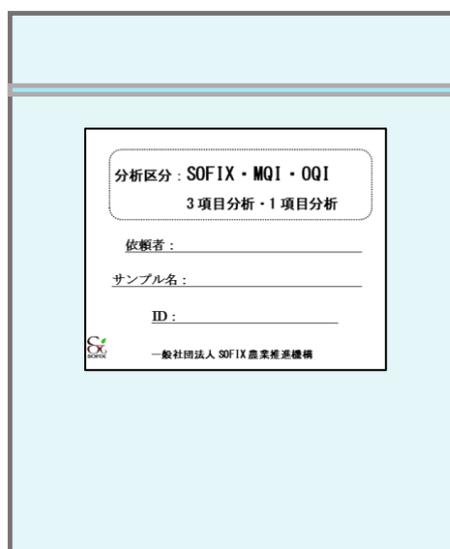
	土壌重量				
	採取地点 1	採取地点 2	採取地点 3	採取地点 4	採取地点 5
正しい方法	100 g				
誤った方法	200 g	100 g	150 g	100 g	50 g

- ④ 200 g 以上の土壌を、チャック付き袋もしくは当機構指定の「サンプル採取キット」に入れ、少し空気を入れた状態で封をする。チャック付き袋の場合は、当機構から送付した「袋用 ID ラベルシール」を貼り付け、該当する箇所に記入する。サンプル採取キットの場合は、ID ラベルシールの該当する箇所に記入する（図 2）。

※採取した土壌は乾燥させないこと



A. チャック付き袋の場合（各自で用意）



B. 当機構指定「サンプル採取キット」の場合

図 2 チャック付き袋とサンプル採取キット

土壤採取の一連の流れを図3に示す。

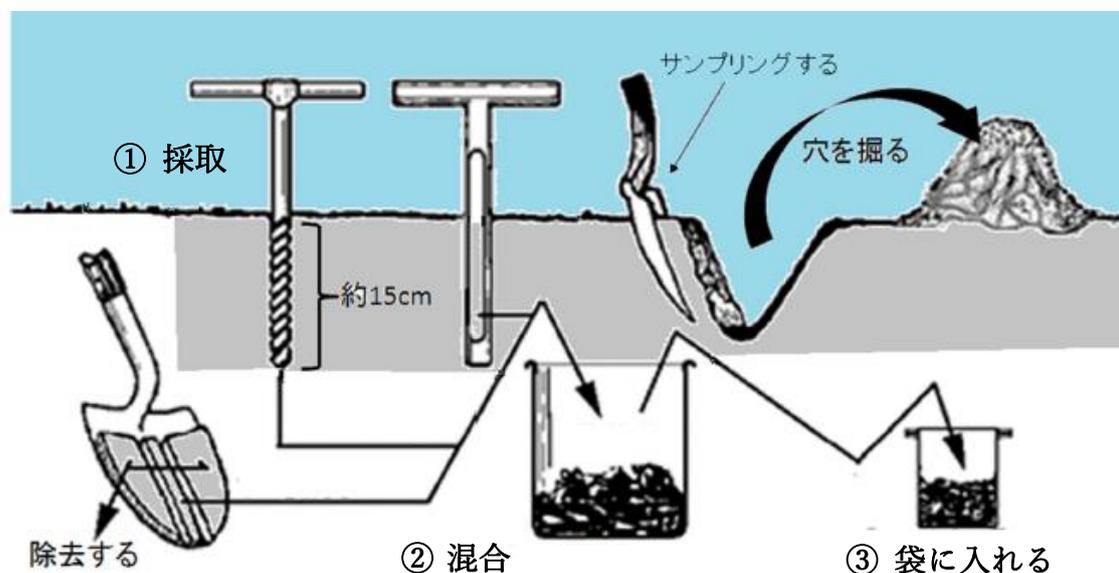


図3 土壤採取の流れ

### (3) 発送

サンプルの採取後は、できるだけ早く送付する。

## 2. MQI・OQI 分析サンプルの採取方法

### (1) 採取方法

- ① 表面と底面の部分を避けて、3～5箇所から採取する。
- ② 100g以上のサンプルを、チャック付き袋もしくは当機構指定の「サンプル採取キット」に入れ、少し空気を入れた状態で封をする(図2)。

### (2) 発送

サンプルの採取後は、できるだけ早く送付する。

一般社団法人 SOFIX 農業推進機構